

2012年度 豊間区 コミュニティ調査結果報告

2013年2月3日

福島工業高等専門学校
いわき地域コミュニティ研究会
松本行真

※本研究は科学研究費 若手(B)『被災自治体における防災・防犯コミュニティ構築とローカルナレッジ形成に関する研究』(課題番号24710176)、福島高专校長戦略経費による成果の一部である。

1	調査概要	2
2	震災前のコミュニティ活動	5
3	震災後のコミュニティ活動	10
4	災害に関するローカルナレッジ	17
5	今後の展開に向けて	19

1. 調査概要

(1) 調査方法と回収結果

調査方法と回収結果

- 調査対象: 薄磯区(247世帯)・豊間区(621世帯)の全世帯の世帯主または準ずる者
- 調査期間: 2012年12月～2013年1月
- 調査方法: 郵送による質問紙調査
- 有効回収数(回収率)
 - 薄磯区 48s(19.4%) 豊間区 132s(21.3%)
- 回収内訳(全体計)
 - 性別
 - 男性67.2%、女性30.6%、不明2.2%
 - 年代別
 - 20代1.1%、30代6.7%、40代11.1%、50代20.6%
 - 60代以上57.2%、不明3.2%
 - 現居住地別
 - 薄磯区内0.0%、豊間区内26.1%、
 - いわき市内62.8%、福島県内1.1%、
 - 福島県外7.2%、不明2.8%

調査の目的と課題

調査目的

薄磯区・豊間区のコミュニティ活動の現状と課題、情報発信・共有実態を明らかにする

調査課題

- 被災前の人づきあい、情報発信・共有、自治会活動はどうだったか
- どのような経緯で避難したのか。避難時の人づきあいはどうだったか
- 現在の人づきあい、情報発信・共有、自治会活動はどうであるか
- 今後の情報発信・共有に何を望んでいるか
- 豊間復帰・集団移転への意向はどうか

数表の見方

全体との有意差を示す記号は、
▲▼:1%、△▽:5%、↑↓:10%、∴∴:20% とする

1. 調査概要

(2) 調査結果の概要 豊間区

※下線部は調査結果からの解釈

1. 震災前のコミュニティ活動

震災前の人づきあいに関しては、隣近所や区内の住民同士の交流が8割以上あり、地域内のつながりは確保されていたと考えられる。しかし、自治会活動への参加としては、地域の清掃美化活動への参加が8割程度あるものの、その他の活動への参加が2割未満であり、行事に関しても、神社祭礼や冠婚葬祭への参加は5割を超えているものの、他の行事への参加は2割程度になっている。組織に関しては、参加していなかったという回答が4割を超えている。このことから、一部の活動や行事以外は、活発に行われていなかったことがうかがえる。

震災前の情報発信・共有に関しては回覧板による情報発信がほとんどだが、国・自治体発行の広報誌の配布も多かった傾向がある。薄磯区と比べると、比較的多様な方法で情報発信・共有をしていることがわかる。満足度としてはまあ満足している、もしくはどちらともいえないと感じている区民が多い。

地域内での個人間のつながりはあるものの、自治会を通じた区民同士の関わりは少なかったことが考えられる。しかし、自治会活動や情報発信・共有について、まあ満足していると感じている区民が多いので、区民の考え方に沿った自治会活動が機能していたのではないだろうか。

2. 震災後の生活

震災後の生活としては、震災前から居住していた自宅で生活している区民と、国・自治体による借上げ住宅もしくは仮設住宅に住んでいる区民がほぼ同数である。人づきあいに関しては、家族・親戚や友人・知人との交流がほとんどである。話している内容としては、自分や家族の健康・人間関係についてが半数以上を占めており、移動手段・交通機関についてや、高齢者・障がい者の介護・福祉について話しているという区民も多い傾向がある。

3. 震災後のコミュニティ活動

震災後の情報発信・共有については、自治会発行の広報誌や国・自治体発行の広報誌による情報伝達、もしくは回覧板によるものが多い。内容については、震災復興等の情報が7割近いが、補償に関する情報は2割程度である。震災前から居住している自宅で生活している区民が多いためか、区内の被害状況についての情報も比較的多い傾向がある。

情報発信・共有の満足度に関しては、震災前と変わらず、まあ満足している、もしくはどちらともいえないと感じている区民が多い。

豊間区では「国・自治体発行の広報誌」や「自治会発行の広報誌」による情報発信が震災以前から充実していたために、区民の満足度が高いのではないかと考えられる。しかし、不満を感じているという回答も3割程度みられたので、さらなる情報発信の充実を目指すことが必要であると考えられる。

4. 豊間区への復帰・集団移転への意向

今後希望する居住先については、自分の住んでいた区に居住したいと考えている区民が半数以上である。

しかし、震災後新しく自宅を購入した区民や、国・自治体による借上げ住宅に住んでいる区民も多く、豊間区以外のいわき市内での居住を望んでいる区民もみられる。

区民の豊間復帰意向を高めるために、何らかの対策を考える必要があると思われる。

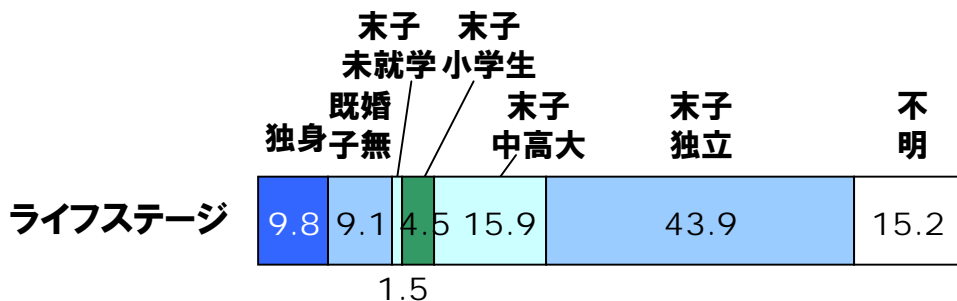
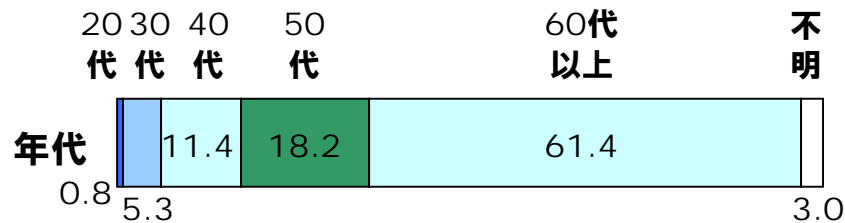
1. 調査概要

(3) 調査協力者の基本属性 豊間区

- ・調査協力者の基本属性を確認する。性別は「男性」(69.7)、「女性」(28.8)であった。年代は40代以下が2割未満であり、「50代」(18.2)、「60代以上」(61.4)のように60代以上が過半数を占める。ライフステージは多い順に「末子独立」(43.9)、「末子中高大」(15.9)となっている。
- ・震災前の居住地は「兎渡路」(21.2)、「合磯」(18.2)、「原町」(12.9)が上位であり、「下町」(9.1)以下はいずれも1割未満である。

単位: %

性別・年代・ライフステージ N=132



震災前の居住地 N=132



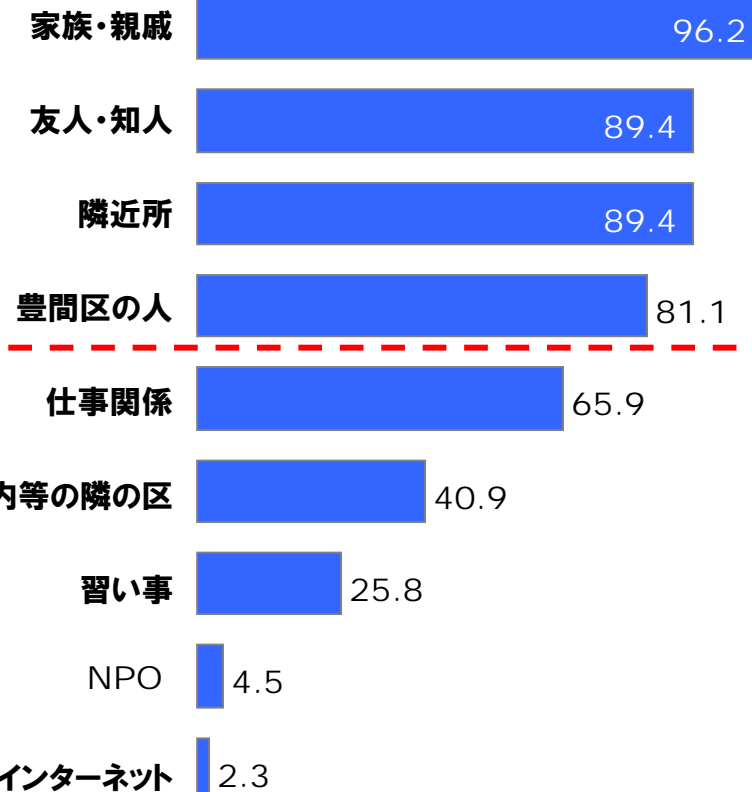
2. 震災前のコミュニティ活動

(1) 人づきあい 豊間区

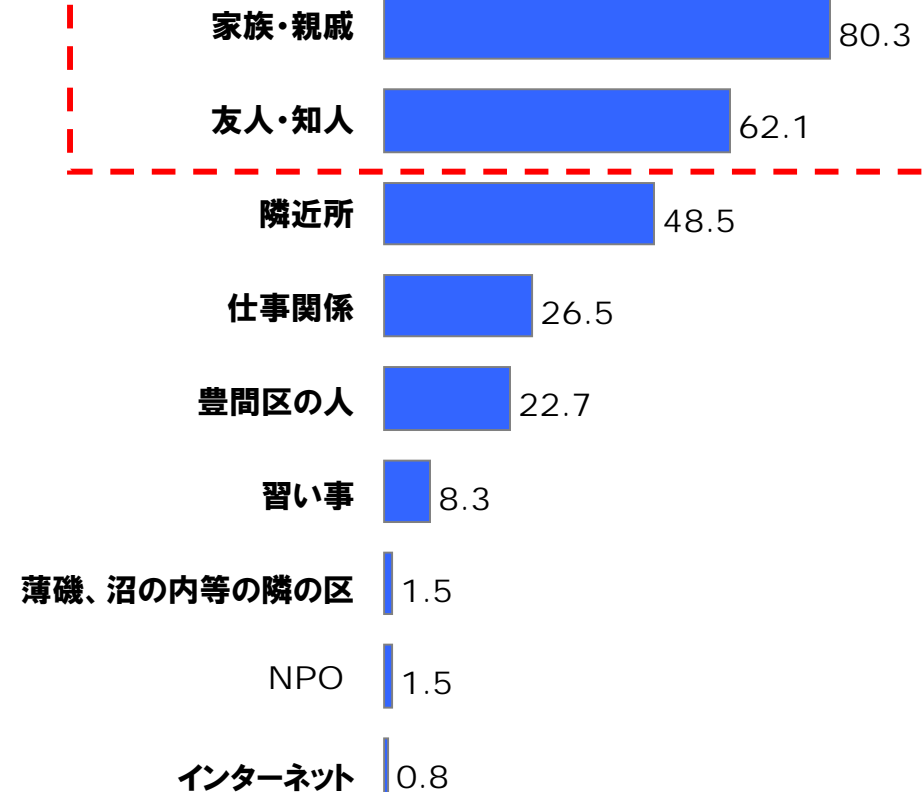
- ・震災前の人づきあいであるが、「家族・親戚」(96.2)、「友人・知人」や「隣近所」(89.4)、「豊間区の人」(81.1)が多く、地域内のつながりは確保されていたことがうかがえる。
- ・特につきあいのある人についてみると、先と同様に「家族・親戚」(80.3)、「友人・知人」(62.1)であることは変わらないが、「隣近所」(48.5)や「豊間区の人」(22.7)となっており、つきあいはあるもののそれは密な関係ではないようだ。

単位: %

つきあいのある人 N=132



特につきあいのある人(3つまで) N=132



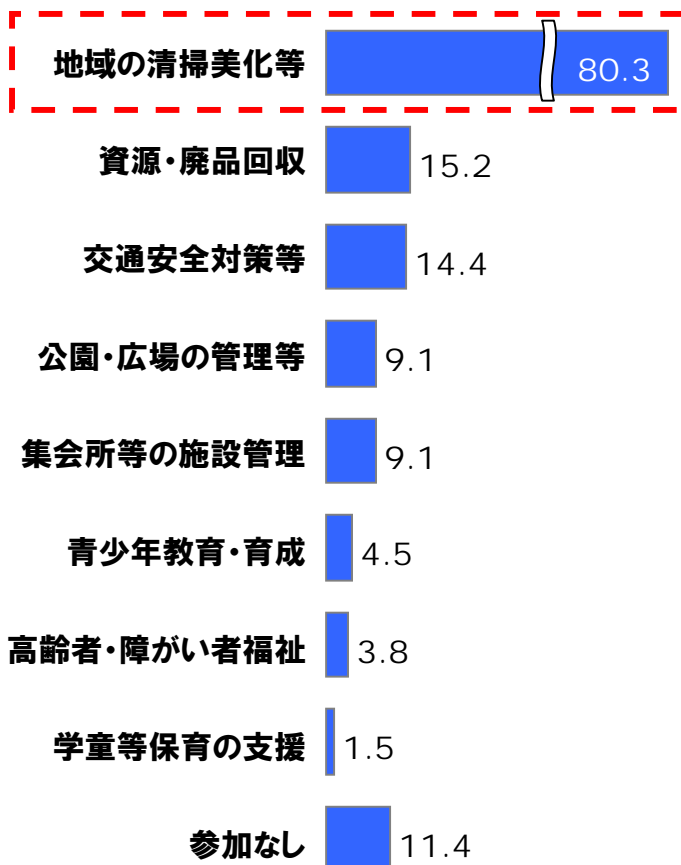
2. 震災前のコミュニティ活動

(2) 活動・行事・組織への参加 豊間区

- ・次に豊間区内における震災前の自治会への諸活動・組織への参加について確認する。
- ・活動で多いのは「地域の清掃美化」(80.3)と約8割であるものの、その他の活動はいずれも2割未満であった。行事は「神社祭礼」(59.1)や「冠婚葬祭」(54.5)が5割を超え、「自治会の総会」は3割に満たなかった。
- ・組織への参加は、「氏子会・檀家組織」(22.0)だけが2割を超えているだけで、「体育協会」(14.4)や「子供会育成会」(13.6)以外はいずれも1割に満たないなかで、「参加なし」は4割を超えていた。

単位: %

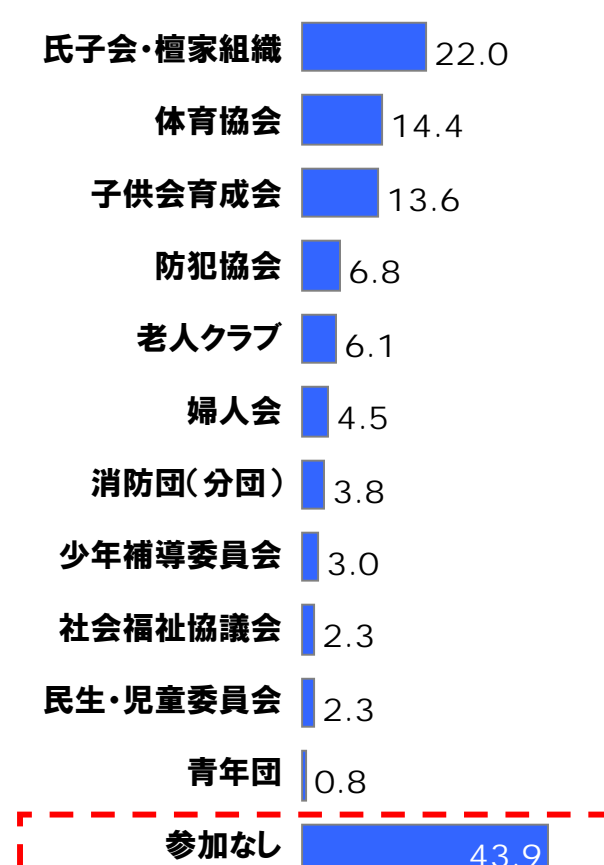
活動 N=132



行事 N=132



組織 N=132



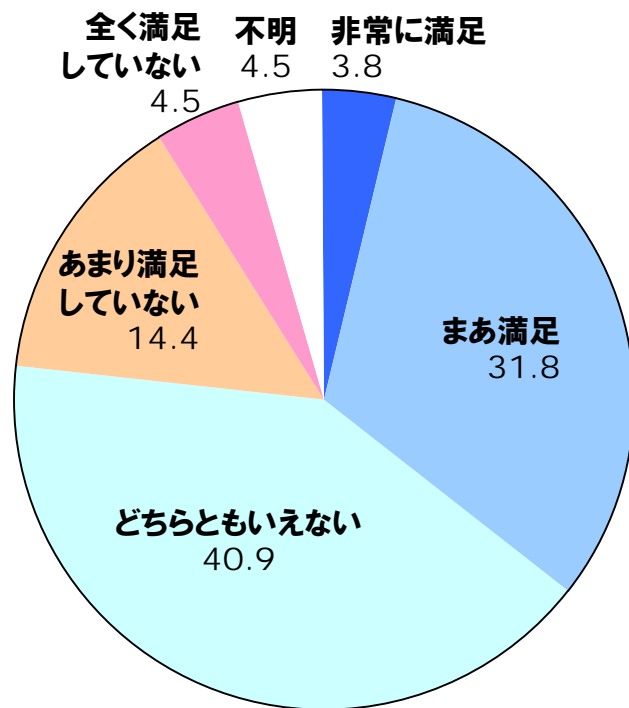
2. 震災前のコミュニティ活動

(4) 震災前の自治会評価と情報伝達・共有評価 豊間区

- ・震災前の自治会評価について確認すると、「非常に満足」(3.8)、「まあ満足」(31.8)と肯定的な評価をしている人は3割程度に留まった。
- ・情報伝達・共有の評価とのかかわりを見ていくと、ふだんの情報伝達・共有に満足している人が自治会への評価が高く、一般住民にとっての自治会に関する情報伝達・共有が重要であることがわかる。

単位：%

震災前の自治会評価 N=132



自治会評価と情報評価の関係 N=180

		自治会満足度						
		全 体	非常に満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	不 明
情報満足度	全 体	180	3.3	27.2	38.3	19.4	7.2	4.4
	非常に満足している	8	▲ 25.0	37.5	∴ 12.5	-	-	▲ 25.0
	まあ満足している	47	6.4	▲ 63.8	▽ 21.3	▼ 4.3	∴ 2.1	2.1
	どちらともいえない	66	-	▽ 15.2	▲ 65.2	16.7	∴ 3.0	-
	あまり満足していない	37	2.7	▽ 10.8	29.7	▲ 43.2	∴ 13.5	-
	まったく満足していない	9	-	-	22.2	↑ 44.4	▲ 33.3	-

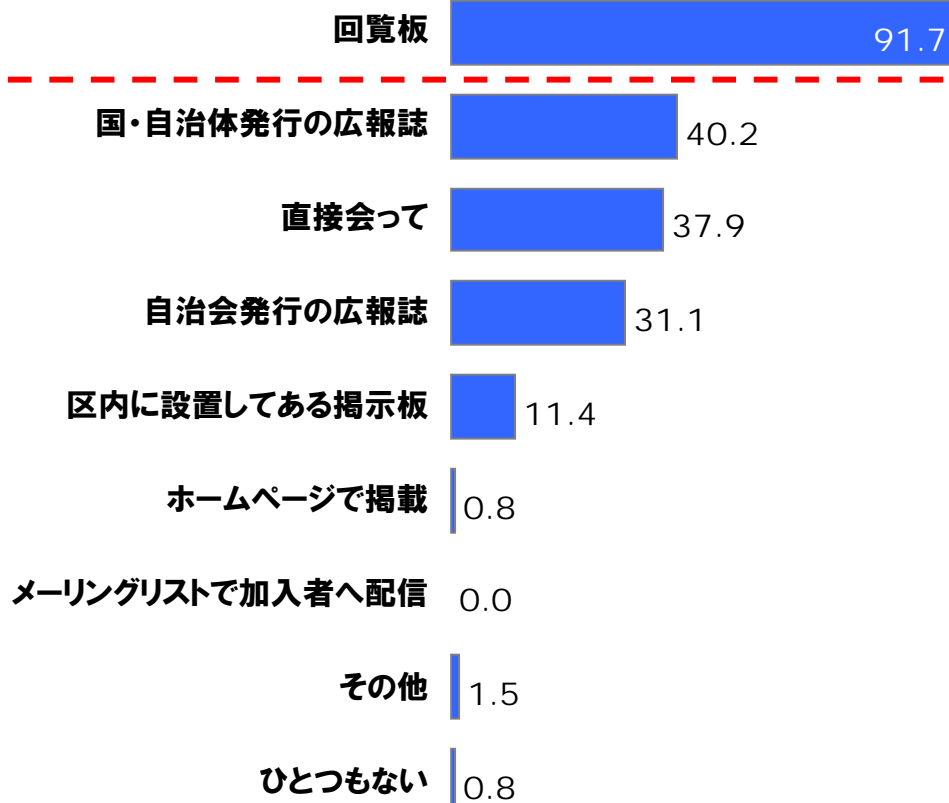
2. 震災前のコミュニティ活動

(5) 震災前の情報伝達・共有評価 豊間区

- ・ 情報伝達・共有の方法を確認すると、「回覧板」(91.7)が9割に達しており、それ以外の方法は「国・自治体発行の広報誌」(40.2)、「直接会って」(37.9)、「自治会発行の広報誌」(31.1)と、比較的多様な方法で伝達・共有していることがうかがえる。
- ・ その内容であるが、「国・自治体発行の広報誌」(59.8)が約6割であるのに対して、「防災・防犯に関する情報」(46.2)や「役員会等に関する情報」(43.2)などは4～5割であった。

単位：%

情報伝達・共有の方法 N=132



情報伝達・共有の内容 N=132



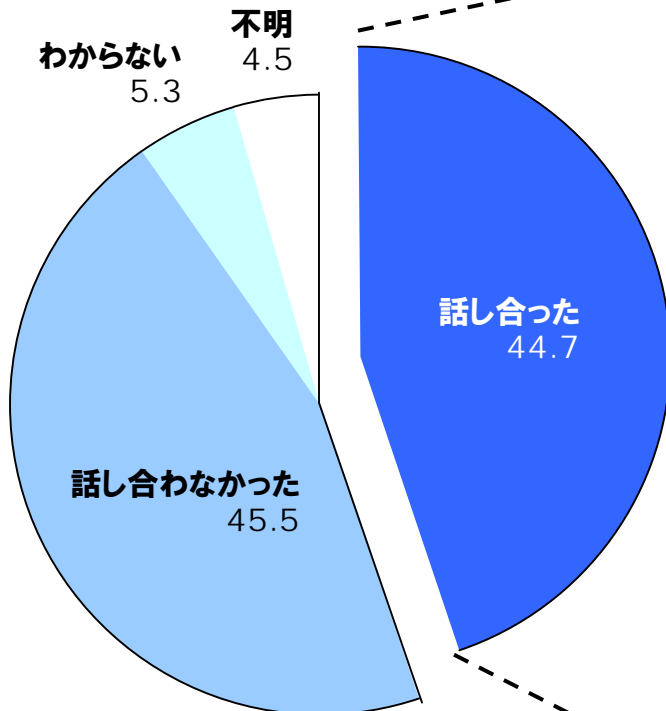
2. 震災前のコミュニティ活動

(6) 大地震等への事前対応 豊間区

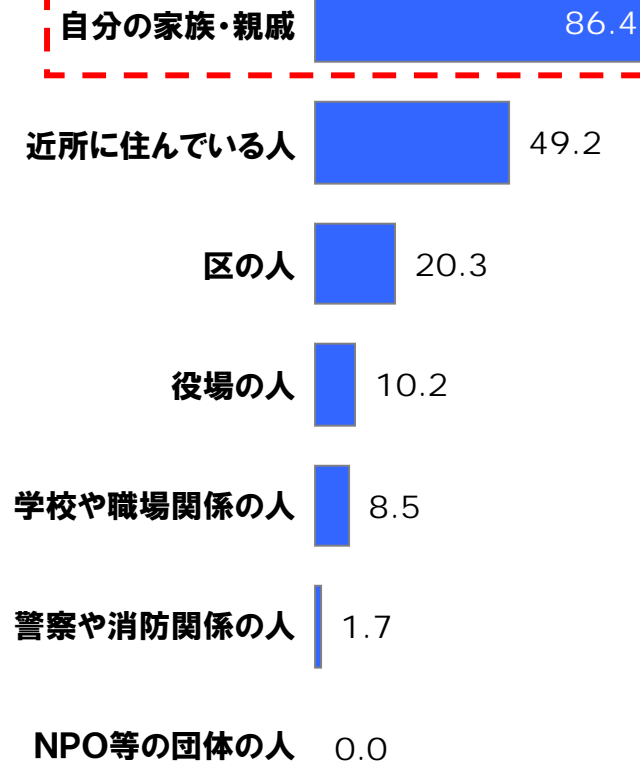
- ・震災への地域の事前対応を確認すると、「話し合った」のは全体の四割強である。
- ・話し合った人について、その相手を見ると「自分の家族・親戚」(86.4)が8割以上、「近所」(49.2)は半数に達しているが、「区の人」(20.3)は2割程度であり、地域での対応というよりは身内で話す程度にとどまっていたようだ。
- ・内容であるが、「避難の方法・時期」(76.3)が約8割に達しているだけで、あくまでも個人・家族単位での対応といえよう。

単位: %

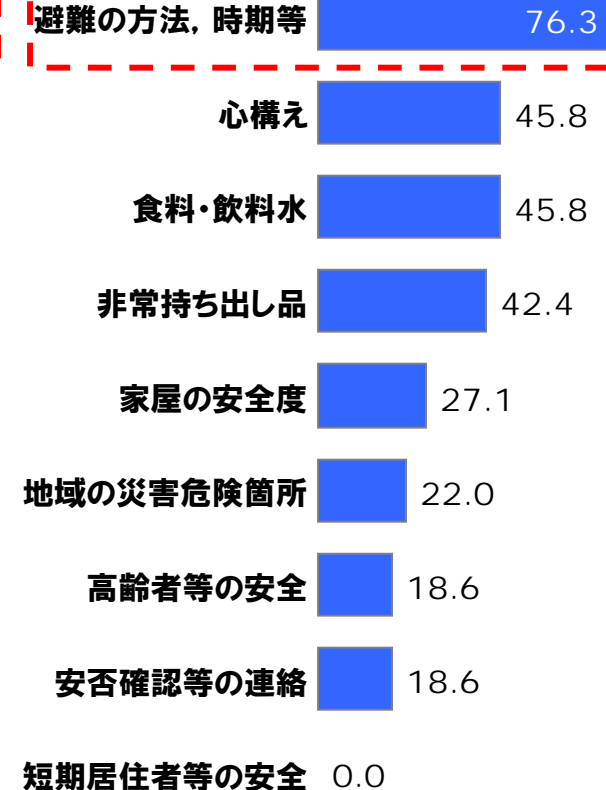
大地震等への対応 N=132



話した相手 N=59 話合った人ベース



内容 N=59 話合った人ベース



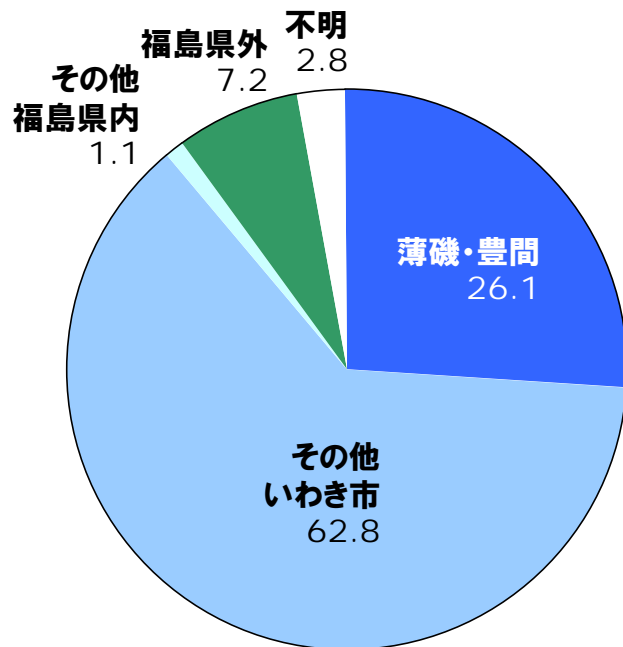
3. 震災後のコミュニティ活動

(1) 住まい・暮らし

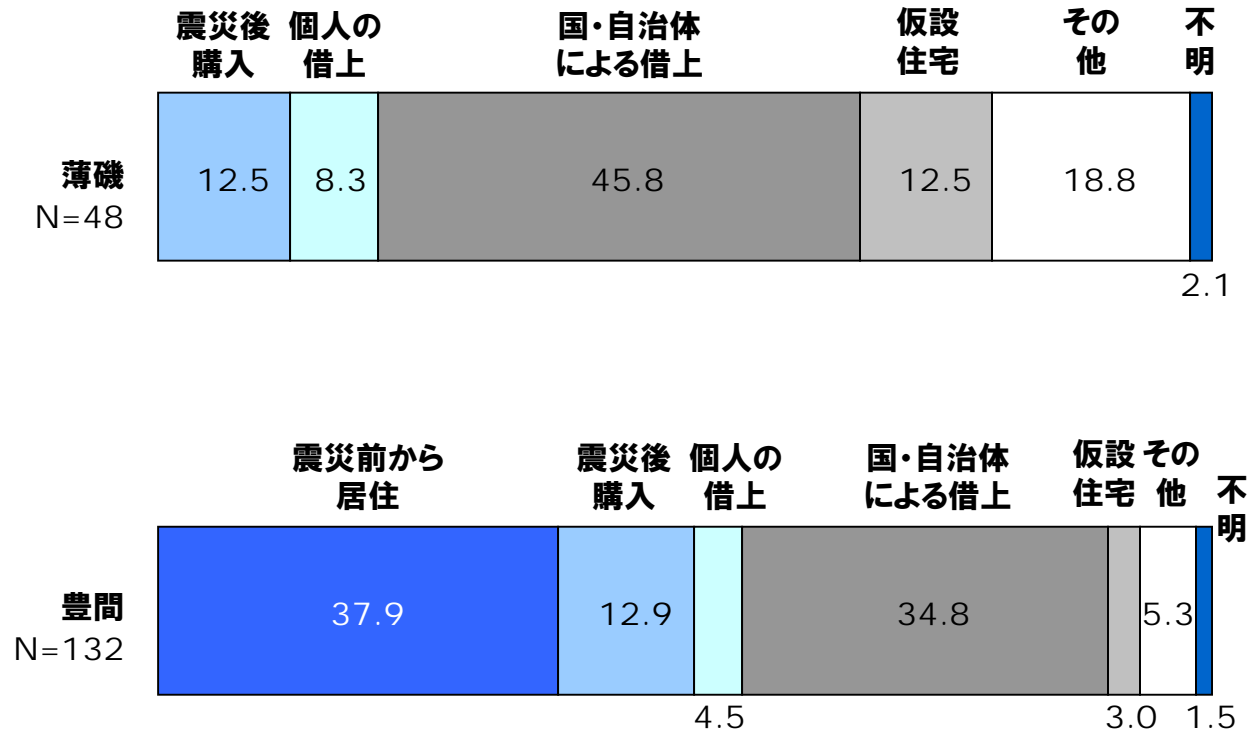
- ・現在に至るまでの生活状況について確認する。調査協力者ベースであるが現在の居住地をみると、「薄磯・豊間区」(26.1)、「その他いわき市」(62.8)であり、「福島県外」(7.2)、「その他福島県内」(1.1)という結果であった。
- ・現在の居住形態であるが、薄磯区は「国・自治体による借り上げ」(45.8)と「仮設住宅」(12.5)で約6割であり、豊間区では「震災前から居住」(37.9)と同区の国・自治体借り上げと仮設住宅の和とほぼ同数である。

単位：%

現在の居住地 N=180



現在の居住形態



3. 震災後のコミュニティ活動

(2) ふだんの付き合い

- ・震災後の人づきあいであるが、「家族・親戚の親戚」(89.4)や「友人・知人」(82.2)が多く、「震災前の隣近所」(51.7)は約半数であった。
- ・居住地域別で見ると、薄磯区では隣近所というよりは自治会関係者との交流が多く、その一方で豊間区は家族・親戚や友人・知人が相対的に多く、両区で付き合いの範囲が異なっていることがうかがえる。

単位: %

付き合いのある人 N=180

家族・親戚 89.4

友人・知人 82.2

隣近所の人たち 51.7

仕事関係での付き合い 49.4

その他自区の人たち 46.1

自分の住んでいた区役員 26.7

沼の内区等の隣の区 23.9

NPO等の団体の人たち 12.2

インターネット 0.6

ひとつもない 1.1

居住地域別 N=180

	全 体	家族・親戚	友人・知人	隣近所の人たち	仕事関係での付き合い	その他自区の人たち
全 体	180	89.4	82.2	51.7	49.4	46.1
地 区						
薄磯	48	▽ 79.2	79.2	▽ 37.5	45.8	↑ 58.3
豊間	132	∴ 93.2	83.3	56.8	50.8	41.7
居 住						
震災前から住んでいた自宅	50	∴ 96.0	88.0	▲ 80.0	54.0	40.0
震災後に住み始めた住宅	127	88.2	81.9	▽ 41.7	48.8	49.6
	全 体	自分の住んでいた区自治会役員	沼の内区等の隣の区	NPO等の団体の人たち	インターネット	ひとつもない
全 体	180	26.7	23.9	12.2	0.6	1.1
地 区						
薄磯	48	∴ 35.4	△ 37.5	∴ 18.8	-	△ 4.2
豊間	132	23.5	∴ 18.9	9.8	0.8	-
居 住						
震災前から住んでいた自宅	50	24.0	22.0	10.0	-	-
震災後に住み始めた住宅	127	28.3	25.2	13.4	0.8	1.6

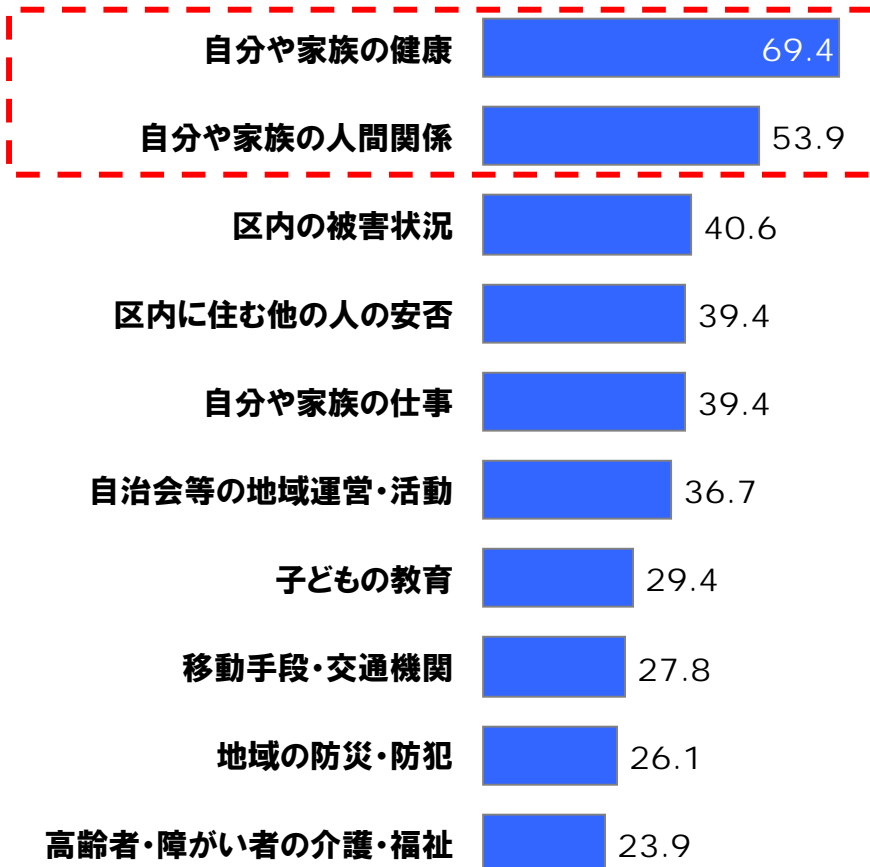
3. 震災後のコミュニティ活動

(3) 話す内容

- ・話す内容について確認すると、「健康」(69.4)や「人間関係」(53.9)が半数以上を占め、「被害状況」(40.6)や「他の人の安否」(39.4)などはいずれも4割以下である。
- ・居住地域別であるが、薄磯区／豊間区において差があるのは「移動手段・交通機関」や「介護・福祉」であり、これは調査対象者の60代以上比率が薄磯区よりも高いことが要因の一つと考えられる。

単位：％

話す内容 N=180



居住地域別 N=180

		全 体	自分や家族の健康について	自分や家族の人間関係について	区内の被害状況について	区内に住む他の人の安否について	自分や家族の仕事について
全 体		180	69.4	53.9	40.6	39.4	39.4
地 区	薄磯	48	66.7	54.2	43.8	35.4	43.8
	豊間	132	70.5	53.8	39.4	40.9	37.9
居 住	震災前から住んでいた自宅	50	∴ 78.0	62.0	↑ 52.0	46.0	42.0
	震災後に住み始めた住宅	127	66.9	51.2	36.2	37.0	38.6
		全 体	自治会等の地域運営・活動について	子どもの教育について	移動手段・交通機関について	地域の防災・防犯について	高齢者・障がい者の介護・福祉について
全 体		180	36.7	29.4	27.8	26.1	23.9
地 区	薄磯	48	37.5	29.2	20.8	29.2	∴ 14.6
	豊間	132	36.4	29.5	30.3	25.0	27.3
居 住	震災前から住んでいた自宅	50	↑ 48.0	30.0	△ 42.0	34.0	26.0
	震災後に住み始めた住宅	127	33.1	29.9	22.8	23.6	23.6

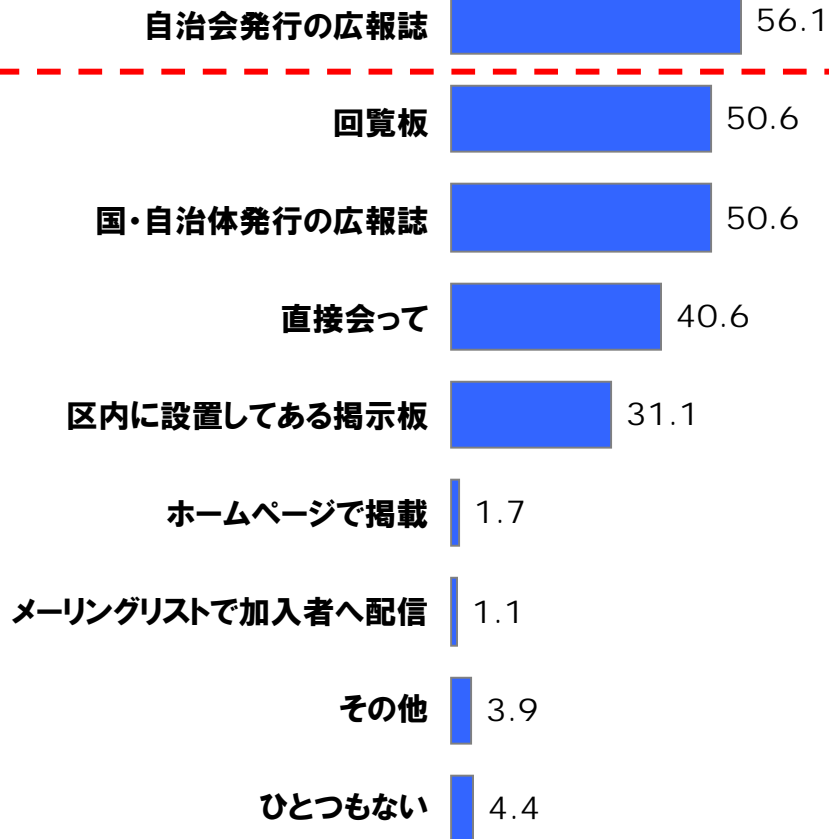
3. 震災後のコミュニティ活動

(4) 情報伝達・共有の方法

- ・ 情報伝達・共有の方法を確認すると、「自治会発行の広報誌」(56.1)、「回覧板」「国・自治体発行の広報誌」(50.6)である。
- ・ 居住地域別でみると、薄磯区は「直接会って」(54.2)や「区内設置の掲示板」(50.0)であるのに対して、豊間区では「自治会発行の広報誌」(62.9)となっており、情報伝達・共有の方法についてはやや違いがみられる。また、「震災前から住んでいた自宅」の人のほうが多くの情報伝達・共有がみられるので、地理的・距離的な障壁を克服する仕掛けが必要だといえる。

単位：％

情報伝達・共有の方法 N=180



居住地域別 N=180

		全 体	自治会発行の広報誌	回覧板	国・自治体発行の広報誌	直接会って	区内に設置してある掲示板
全 体		180	56.1	50.6	50.6	40.6	31.1
地区	薄磯	48	▼ 37.5	43.8	47.9	↑ 54.2	▲ 50.0
	豊間	132	∴ 62.9	53.0	51.5	35.6	↓ 24.2
居住	震災前から住んでいた自宅	50	∴ 66.0	▲ 90.0	↑ 64.0	46.0	36.0
	震災後に住み始めた住宅	127	52.8	▼ 36.2	46.5	39.4	29.9

		全 体	ホームページで掲載	メーリングリストで加入者へ配信	その他	ひとつもない
全 体		180	1.7	1.1	3.9	4.4
地区	薄磯	48	∴ 4.2	-	4.2	2.1
	豊間	132	0.8	1.5	3.8	5.3
居住	震災前から住んでいた自宅	50	2.0	-	-	-
	震災後に住み始めた住宅	127	1.6	1.6	5.5	6.3

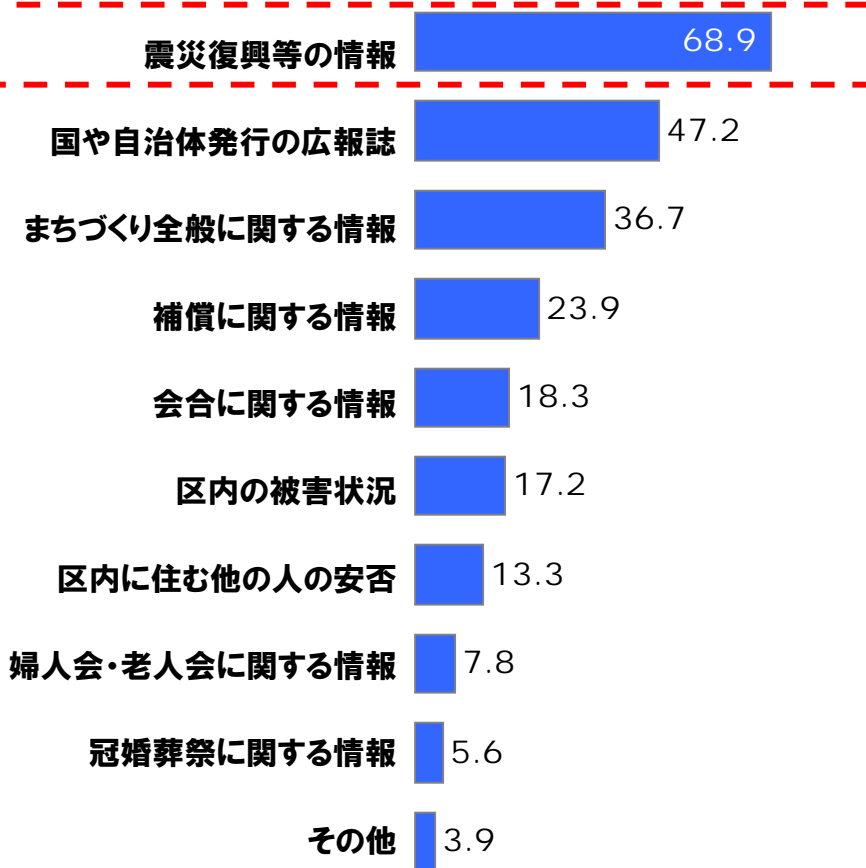
3. 震災後のコミュニティ活動

(5) 情報伝達・共有の内容

- ・ 情報伝達・共有の方法を確認する。「震災復興等の情報」(68.9)が7割近いものの、「国・自治体発行の広報誌」(47.2)や「まちづくり全般に関する情報」(36.7)などはいずれも半数に達していない。
- ・ 居住地域別では、薄磯区と豊間区で差があるのは「会合に関する情報」(薄27.1、豊15.2)、「区内被害状況」(薄10.4、豊19.7)である。また、震災前からある自宅に住んでいる人が多くの内容に関する情報伝達・共有がなされており、ここでも情報に関する格差(ディバイド)を確認することが出来る。

単位: %

情報伝達・共有の内容 N=180



居住地域別 N=180

		全 体	震災復興等の情報	国や自治体が発行する広報誌の内容	まちづくり全般に関する情報	補償に関する情報	会合に関する情報
全 体		180	68.9	47.2	36.7	23.9	18.3
地 区	薄磯	48	70.8	47.9	39.6	31.3	∴ 27.1
	豊間	132	68.2	47.0	35.6	21.2	15.2
居 住	震災前から住んでいた自宅	50	∴ 78.0	↑ 60.0	38.0	22.0	∴ 26.0
	震災後に住み始めた住宅	127	66.9	43.3	36.2	25.2	15.0
		全 体	区内の被害状況について	区内に住む他の人の安否について	婦人会・老人会に関する情報	冠婚葬祭に関する情報	その他
全 体		180	17.2	13.3	7.8	5.6	3.9
地 区	薄磯	48	10.4	14.6	10.4	8.3	6.3
	豊間	132	19.7	12.9	6.8	4.5	3.0
居 住	震災前から住んでいた自宅	50	↑ 26.0	10.0	6.0	4.0	-
	震災後に住み始めた住宅	127	14.2	15.0	8.7	6.3	5.5

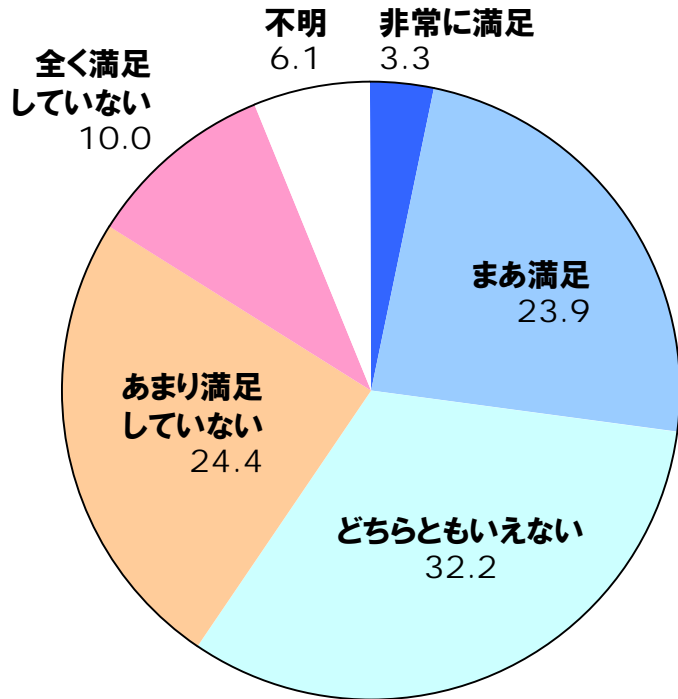
3. 震災後のコミュニティ活動

(6) 情報伝達・共有評価

- ・現在の情報伝達・共有への評価はどうだろうか。全体では「非常に満足」(3.3)、「まあ満足」(23.9)と、満足している人は全体の約四分の一程度である。
- ・居住地域別でみると、薄磯区で多いのは「あまり満足していない」、豊間区で多いのは「まあ満足している」であり、相対的に豊間区においては情報伝達・共有への評価が高いようだ。

単位：%

情報伝達・共有評価 N=180



居住地域別 N=180

	全 体	非常に満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	不 明
全 体	180	3.3	23.9	32.2	24.4	10.0	6.1
地 区							
薄磯	48	6.3	16.7	31.3	31.3	6.3	8.3
豊間	132	2.3	26.5	32.6	22.0	11.4	5.3
居 住							
震災前から住んでいた自宅	50	-	24.0	△ 48.0	∴ 16.0	10.0	2.0
震災後に住み始めた住宅	127	4.7	24.4	∴ 26.8	27.6	10.2	6.3

3. 震災後のコミュニティ活動

(7) 住民のコミュニティ意識

- ・ 地域や自治会の活動に関する17つの意識項目を因子分析したところ、「地域をよくするのに役立ちたい」等の『共生志向』、「活動・行事・組織に必要性を感じない」等の『個人主義』、「隣近所とのつきあいがあるため参加している」等の『消極的参加』の3軸が抽出された。
- ・ これらの因子と情報伝達・共有への評価との関係を見ると、情報伝達・共有に満足している人は共生志向が強いが、不満である人は個人主義や消極的参加への傾向がある。

単位: %

コミュニティ意識 因子分析結果 N=180

意識項目	因子分析結果	
共生志向 53.1% 4.08	地域をよくするのに役立ちたい	0.726
	地域の必要な情報が得られる	0.667
	自治会の活動・行事・組織に参加したい	0.594
	近所の人々と親しくなれる	0.544
	いざという時、周囲の人に助けてもらえる	0.489
個人主義 18.7% 1.44	自治会の役員や会員と親しくなりたい	0.460
	活動・行事・組織に必要性を感じない	0.651
	活動時間が確保できないために参加できない	0.605
	参加するには敷居が高い	0.593
消極的参加 10.8% 0.83	活動や運営の状況がよくわからない	0.558
	参加するメリットがない	0.543
	隣近所とのつきあいがあるため、参加している	0.576
	親の代から住んでいるので、参加している	0.550
	活動・行事・組織に勧誘されたから参加している	0.469
	今、住んでいる区に長く住みたい	0.394

情報伝達・共有とコミュニティ意識との関係

		共生志向	個人主義	消極的参加
情報伝達・共有への評価	満足計 N=34	0.28	▲0.01	▲0.08
	どちらともいえない N=34	▲0.19	▲0.10	0.00
	不満計 N=45	0.01	0.11	0.05

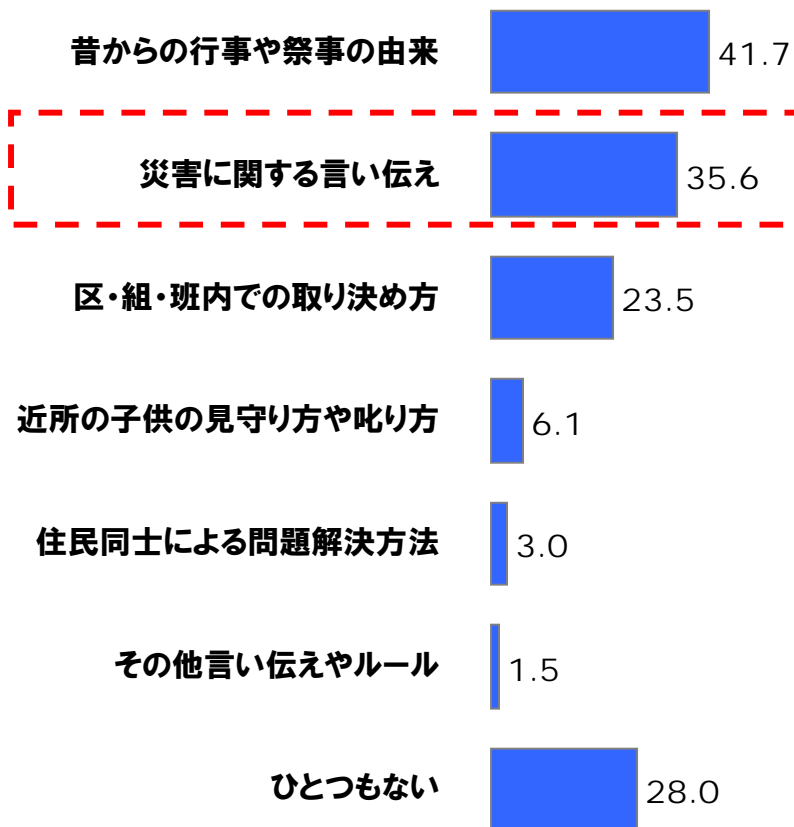
4. 災害に関するローカルナレッジ

(1) 地区の言い伝え 豊間区

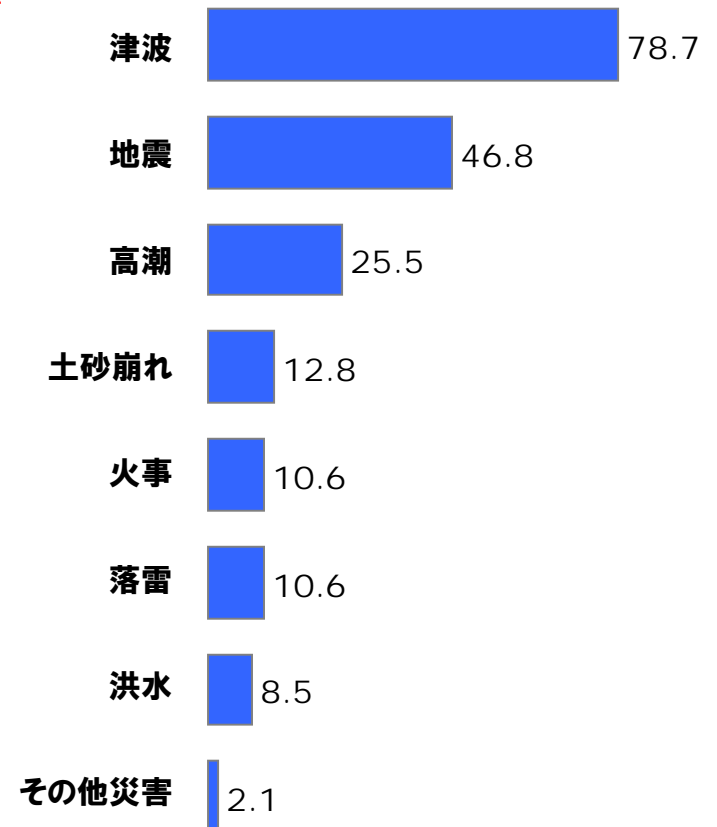
- ・ここでは災害に関する過去の知恵・知識(ローカルナレッジ)の存在について確認する。
- ・豊間区における言い伝えで多かったのは「行事や祭事の由来」(41.7)が約4割であり、続いて「災害」(35.6)や「区・組・班内での取り決め方」(23.5)であった。
- ・災害に関する言い伝えについては、「津波」(78.7)と8割近くに達した。

単位: %

豊間区に存在する言い伝え N=132



災害に関する言い伝え N=47



4. 災害に関するローカルナレッジ

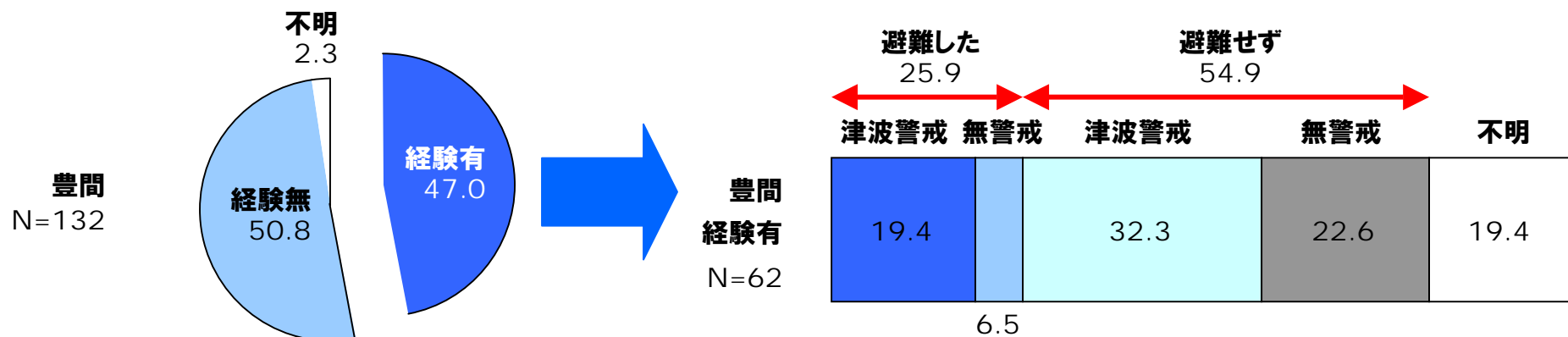
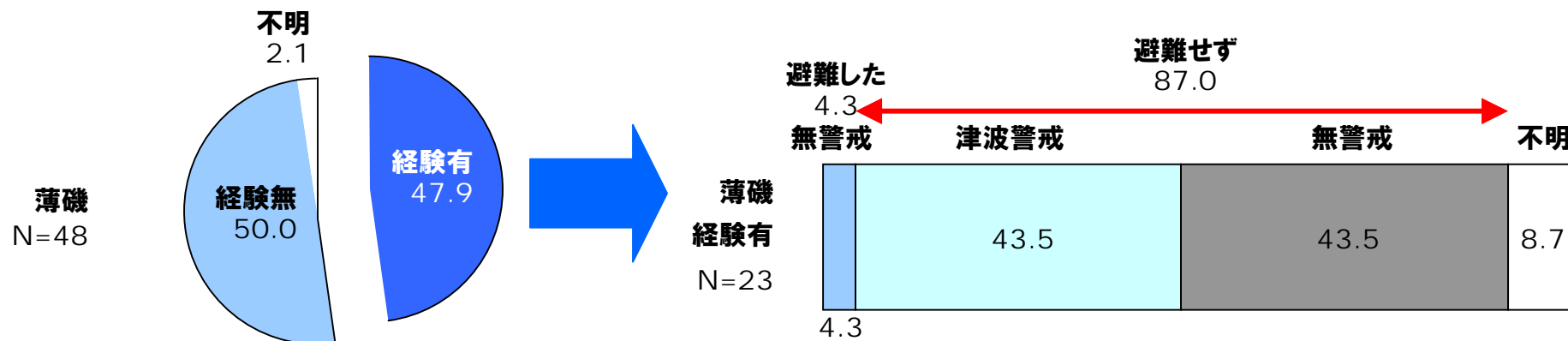
(2) チリ地震の経験

- ・次に各地区でのチリ地震による津波(1960年5月)に関する経験を確認する。薄磯、豊間の両区とも経験した人は全体の約5割であるものの、その後の津波対応は大きく異なっている。
- ・具体的には経験者ベースで薄磯区の約9割は避難しなかったのに対して、豊間区では避難した人は約四分の一に達していた。

単位: %

チリ地震津波の経験有無

津波対応有無



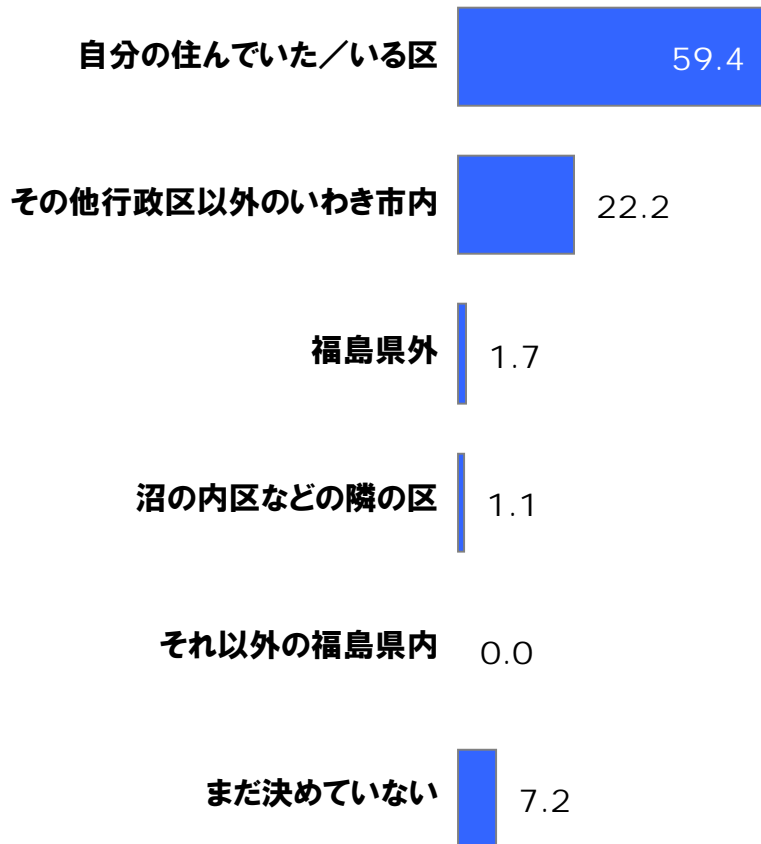
5. 今後の展開に向けて

(1) 今後規模する居住先

- ・ 今後希望する居住先について確認すると、全体では「自分の住んでいた／いる区」(59.4)と約6割であり、続いて「隣の区以外のいわき市内」(22.2)という結果であった。
- ・ 居住地域別では、薄磯、豊間両区で「自分の住んでいた／いる区」が約6割とほぼ変わらないが、薄磯区の「まだ決めていない」(14.6)が豊間区に比べて多く、また「震災後に住み始めた住宅」の人は「隣の区以外のいわき市内」(27.6)への希望が多い。

単位：%

希望する居住先 N=180



居住地域別 N=180

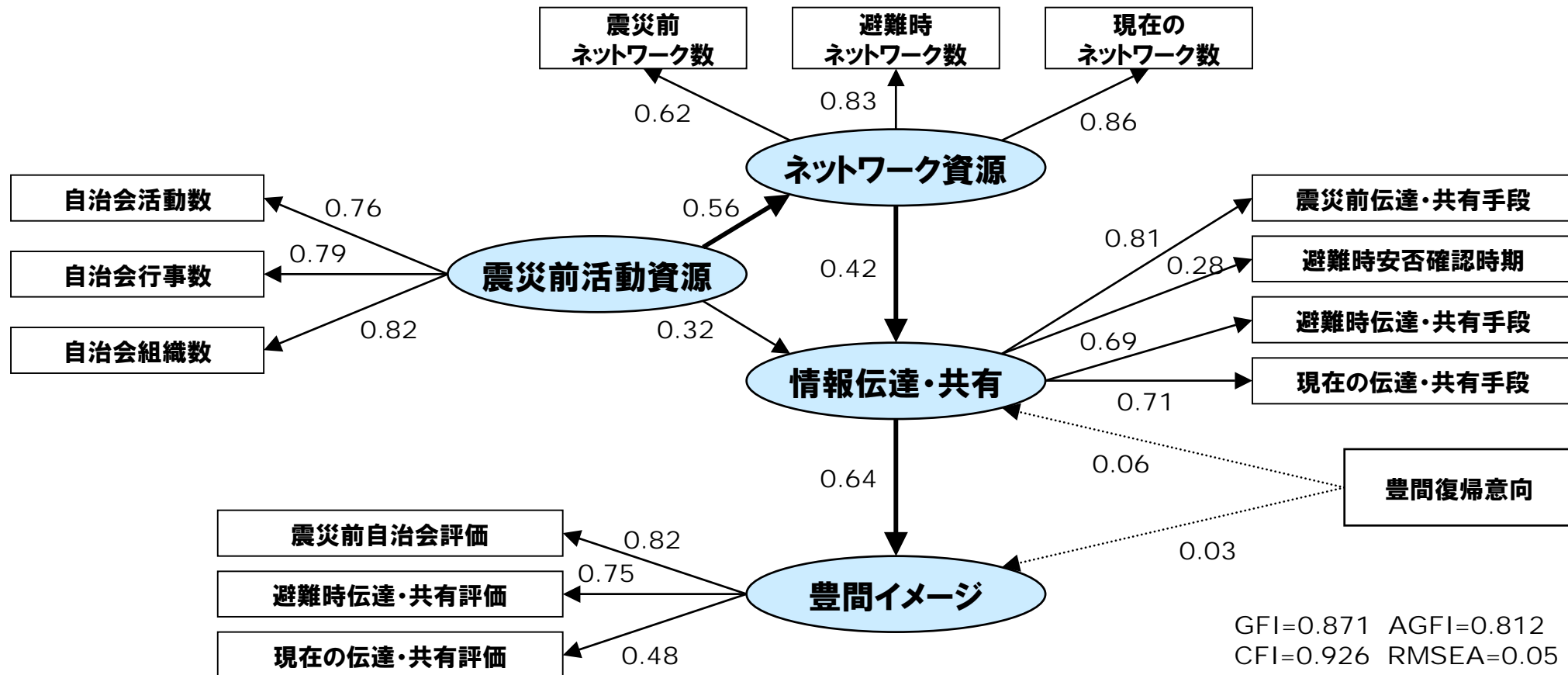
	全 体	自分の住 んでいた 区	その他行 政区以外 のいわき 市内	福島県外	沼の内区 などの隣 の区	それ以外 の福島県 内	まだ決めて いない
全 体	180	59.4	22.2	1.7	1.1	-	7.2
地 区	薄磯	48	56.3	22.9	2.1	-	△ 14.6
	豊間	132	60.6	22.0	1.5	1.5	-
居 住	震災前から住んでいた自宅	50	∴ 70.0	▽ 8.0	-	-	8.0
	震災後に住み始めた住宅	127	56.7	∴ 27.6	2.4	1.6	-

5. 今後の展開に向けて

(2) 情報伝達・共有の重要性 豊間区

- ・ここでは分析してきた自治会活動、人づきあい、情報伝達・共有や豊間区へのイメージと復帰意向と関係を、共分散構造分析により明らかにする。
- ・下記の図でいえることは、豊間区への評価イメージは情報伝達・共有に関わるのであり、それは「震災前の伝達・共有手段」の整備如何に大きく左右されたようだ。これらの情報伝達・共有を支えるのが区内で形成される各個人のネットワーク(人づきあい)であり、それは震災前からの自治会活動に担保されている。

震災前後の地域資源、豊間イメージと復帰意向の関係 N=132 ※点線は5%有意で棄却されるパス



5. 今後の展開に向けて

(3) 期待する情報伝達・共有の内容と方法

- ・(2)では情報伝達・共有の重要性を示したが、情報伝達・共有評価と期待する情報内容・方法とのかかわりを確認する。
- ・「内容」については、現状の伝達に不満である人ほど「補償の情報」(▲8.2pt)への期待が高い。今までにこうした情報が十分に伝わっていないことを意味している。
- ・同様に「方法」については微差ではあるものの、現状の評価が低い人ほど「メーリングリストで加入者へ配信」(▲2.8pt)や「タブレット端末」(▲2.4pt)といった情報通信機器による伝達・共有を期待していることがわかる。

単位: %

期待する情報伝達・共有内容 N=49:満足ベース N=62:不満ベース

情報伝達内容	現在の情報伝達		差 満足－不満
	満足	不満	
国や自治体発行の広報誌	49.0	25.8	23.2
会合に関する情報	18.4	6.5	11.9
区内の被害状況	20.4	9.7	10.7
婦人会・老人会の情報	10.2	0.0	10.2
冠婚葬祭に関する情報	30.6	21.0	9.6
区内に住む他の人の安否	20.4	14.5	5.9
近隣の買い物情報	6.1	3.2	2.9
補償に関する情報	10.2	8.1	2.1
まちづくり全般情報	91.8	90.3	1.5
補償に関する情報	53.1	61.3	▲8.2

期待する情報伝達・共有方法 N=49:満足ベース N=62:不満ベース

情報伝達方法	現在の情報伝達		差 満足－不満
	満足	不満	
回覧板	46.9	30.6	16.3
自治会以外発行チラシ配布	46.9	32.3	14.6
ホームページで掲載	14.3	8.1	6.2
自治会独自の会報	67.3	67.7	▲0.4
タブレット端末配布	4.1	6.5	▲2.4
MLで加入者へ配信	2.0	4.8	▲2.8